

# 平成25年度 沖縄県立北部農林高等学校(定時制課程) 学校評価の結果

I 調査期間	2. 評価者(回答人数/対象全体数=回答率)	
①教職員 : 平成26年3月4日～3月7日 ②生徒 : 平成25年9月30日～10月4日 ③保護者 : 平成25年9月30日～10月18日 ④学校評議員 : 平成26年2月20日～3月7日 ⑤外部関係者 : 実施なし	①教職員 18人/全18人(教育職+事務現業/回答率100%) ②生徒 60人/全92人(実施時の活動生/回答率65.2%) ③保護者 4人/全91人(同上の保護者/回答率4.5%) ④学校評議員 4人/全5人(回答率80.0%) ⑤外部関係者の評価 実施なし	
II 今年度の成果と課題		
<p><b>【成果】</b> 1) 農業実習と学校行事を一体化したイベントの成功 ①生産物の販売活動(「ゆんたく市」「農業祭」など) ②園芸装飾(花文字、巨大クリスマスツリー、バレンタインゲート、東日本大震災復興祈願鎮魂祭など)</p> <p>2) 部活動の活躍 体育系: 全国定通体育大会へ出場 ①男子ソフトテニス部、②男子バレーボール部                      ③女子卓球、④陸上競技 文化系: 全国農業高校競技会へ出場 ①ワープロ技能競技、②農業鑑定競技。ほかに全定合同の農業課題研究発表大会で県大会(平成26年度6月開催)への出場枠を1席獲得</p> <p><b>【課題】</b> 1) 単位修得率の向上                      2) 卒業率の向上 (卒業者15人/4年生の年度当在籍31人 卒業率 48.4% 前年度13人/44.8%)                      3) 中途退学対策の強化 (退学者17人/15.7% 年度当初目標10人以下 前年度11人/11.4%)</p>		
III 年度当初の教育目標・経営方針・努力目標		
1) 人間尊重の教育を基礎に、生活の規律性と他者との協調性を高め、勤学勤労の精神を備えた人物を育成する 2) 学校と家庭と地域が一体となって、生徒に自己肯定感と生きぬく力をつけ、自立できる人物を育成する 3) 教職員の資質向上を図り、全職員が共通理解の下、力を合わせ学校運営の円滑化と教育目標を実現に努める		
IV 評価		
1) 個人 A:よくできている B:だいたいできている C:あまりできていない D:全くできていない 2) 総合 A:十分達成(A支持+B支持:全体80%以上) C:達成不十分(A支持+B支持:全体の60%未満) B:概ね達成(A支持+B支持:全体60%以上) D:達成不可(A支持+B支持:全体の30%未満)		
個人(対象別)評価は、個人が判断した結果を評価段階別の人数合計でまとめ、その割合を表したものの総合評価は、評価段階ごとの個人評価の総人数(全体)を割合で表したものである		
評価項目	具体的目標及び取り組み内容	総合 個人(対象別)評価の結果(内訳)
①教育目標・学校運営 1) 定時制課程が目指す生徒像は教職員と生徒保護者に理解され、実践されている 2) 生徒は学校が行う諸活動を通じて、自主性と社会性を育み、人として成長している	A	教職員 A:29.4% B:64.7% C:5.9% D:0% 生徒 A:27.9% B:54.1% C:13.1% D:4.9% 保護者 A:50.0% B:50.0% C:0% D:0% 評議員 A:25.0% B:75.0% C:0% D:0% 全体 A:29.1% B:57.0% C:10.5% D:3.5%
②教育相談 1) 教師は生徒の個性を尊重し、個に応じた德育・人権教育を推進している 2) 生徒は教師に心を開き、信頼を寄せている	B	教職員 A:27.8% B:66.7% C:5.5% D:0% 生徒 A:26.2% B:37.8% C:26.2% D:9.8% 保護者 A:75.0% B:25.0% C:0% D:0% 評議員 A:75.0% B:25.0% C:0% D:0% 全体 A:18.8% B:44.7% C:23.1% D:13.2%
③教科指導 1) 学習年間計画及びシラバスに基づいた授業を展開している 2) 教師は創意工夫し、生徒が「分かる授業」「参加する」を実践している	B	教職員 A:25.0% B:68.8% C:6.2% D:0% 生徒 A:27.8% B:45.9% C:19.7% D:6.6% 保護者 A:50.0% B:25.0% C:25.0% D:0% 評議員 A:25.0% B:75.0% C:0% D:0% 全体 A:28.2% B:50.6% C:16.5% D:4.7%
④進路指導 1) 生徒は将来に対し、具体的な目標や希望を持っている 2) 教職員はキャリア教育の充実させ、生徒に職業観・勤労観を育てている	B	教職員 A:6.3% B:61.4% C:31.3% D:0% 生徒 A:32.8% B:39.3% C:16.4% D:11.5% 保護者 A:50.0% B:25.0% C:25.0% D:0% 評議員 A:25.0% B:75.0% C:0% D:0% 全体 A:28.2% B:44.7% C:18.8% D:8.3%
⑤生徒指導 1) 生徒は他者に対する礼節を重んじ、あいさつを交わす習慣を備えている 2) 教職員は生徒へ危機管理に対する啓発を行い、生徒も校則や法律の順守している	A	教職員 A:50.0% B:33.3% C:16.7% D:0% 生徒 A:43.3% B:43.3% C:11.7% D:1.7% 保護者 A:50.0% B:0% C:50.0% D:0% 評議員 A:25.0% B:75.0% C:0% D:0% 全体 A:44.2% B:40.7% C:14.0% D:1.1%

V 評価項目 具体的目標及び取り組み内容	総合	個人(対象別)評価の結果(内訳)				
⑥校内美化・安全管理 1)教育施設及び校内はよく整備され、清潔で使用しやすい状態を保っている 2)危機管理マニュアルに基づき、防犯・防災の対策を徹底している	B	教職員 生徒 保護者 評議員 全体	A:16.7% A:26.7% A:50.0% A:50.0% A:26.8%	B:55.6% B:55.0% B:25.0% B:25.0% B:52.3%	C:22.2% C:15.0% C:25.0% C:25.0% C:17.4%	D: 5.5% D: 3.3% D: 0% D: 0% D: 3.5%
⑦特別活動 1)生徒は学級活動(SHRやLHRなど)に参加し、学校の発信情報を聴いて、理解している 2)生徒は生徒会行事や部活動に参加し、学校生活を楽しんでいる	B	教職員 生徒 保護者 評議員 全体	A:33.3% A:38.3% A:25.0% A:75.0% A:38.4%	B:38.9% B:40.0% B:75.0% B:25.0% B:40.7%	C:27.8% C:16.7% C: 0% C: 0% C:17.4%	D: 0% D: 5.0% D: 0% D: 0% D: 3.5%
⑧家庭との連携 1)生徒は学校が発信する情報や学校での出来事を家庭に伝えている 2)学校が行う諸教育活動は家庭の協力を得て行われている	B	教職員 生徒 保護者 評議員 全体	A:37.5% A:33.9% A:25.0% A:50.0% A:34.9%	B:50.0% B:39.0% B:75.0% B:50.0% B:43.4%	C:12.5% C:15.2% C: 0% C: 0% C:13.3%	D: 0% D:11.9% D: 0% D: 0% D: 8.4%
⑨生徒の愛校心と充実感 1)生徒は本校定時制課程の生徒として日々充実した学校生活を送り、学校に帰属意識を持っている	A	教職員 生徒 保護者 評議員 全体	A:11.8% A:59.3% A:100% A:100% A:53.6%	B:88.2% B:27.1% B: 0% B: 0% B:36.9%	C: 0% C:10.2% C: 0% C: 0% C: 7.1%	D: 0% D: 3.4% D: 0% D: 0% D: 2.4%

上記①～⑨は学校評価として、全対象に共通項目として調査実施したもの  
下⑩は教職員の業務効率化調査、衛生委員会開催、教職員評価システム最終自己申告書をもとに集計したもの

⑩教職員の負担軽減対策、安全衛生対策及び不祥事対策

1)年次休暇等は必要に応じて取ることができる	取りやすい:23.5% 比較的取りやすい:41.2% 取りにくい:35.3%
2)勤務時間内の業務量は多いと感じる	少ない: 11.8% どちらとも言えない:58.8% 多い:29.3%
3)毎日「忙しい」と感じる	感じない:23.6% あまり感じない:35.3% 感じる:41.1%
4)定期健診を受け、健康管理に取り組んでいる	定期健診受診率:100% 産業医による職員の健康状態把握率:100%
5)勤務規律について教職員評価システムの自己申告書の中に取り入れ、不祥事防止を徹底して行っている	自己申告書に掲載:100% コンプライアンス順守:100%

VI 総括(評価結果の分析と考察)

今年度の評価の全集計結果を分析・考察すると、本校の様子として次のようなことが分かった。  
全ての項目で総合評価がB以上あり、そのうち3項目で総合評価がAとなった。とりわけ、⑨生徒の愛校心と充実感は、全体の90.5%が「達成できている」と回答し、校内外における生徒の活動実績の豊富さやマスコミメディアからの取材の多さも、この結果を裏付けらるものとして、喜ばしいかぎりである。本校定時制課程が目指す今年度の「生徒の居場所づくり」は実現できた、と言えよう。その他では、②教育相談と③教科指導では、生徒の判定がやや辛く、反面④進路指導では、教職員の判定が辛い。その違いは何によるものか、検証を深める必要がある。  
最後に、今年度の反省として、保護者の回答率が非常に低く、保護者の「思い」は十分に反映されているとは言えない。来年度は保護者の回答率を上げるための工夫をしなければならない。

VII 次年度に向けた取り組み計画

- 1)本県北部にある唯一の定時制単位制高校なので、地域のセーフティネットとしての役割をしっかりと果たす
- 2)生徒の規範意識(自律力)と勤学精神を育む学習支援を行う場としての態勢を確立する
- 3)単位修得率と卒業率を高めるために、退学者や不登校・欠席がちな生徒を減らす具体的な工夫を講じ、実践する
- 4)卒業生が具体的な将来設計を描いて、進学や就職(アルバイトの継続ではない)するよう、教職員の指導力を向上させる